

## エビネ

(学名: *Calanthe discolor*)

(写真・文 緒勝祐太郎)

【ラン科エビネ属】



▲ 林内に群生するさまはひときわ目立つ

▲ 白い花卉にほんのり赤みが入った個体

エビネは日本全国に広く分布する多年生のラン科植物で、主に人里近くの落葉広葉樹林やスギ林に生育します。和名の「海老根」は、地中にある茎の一部が肥大化したところをエビに見立てたことに由来します。花茎は高さ30~40cmと大柄で、8~15個の花を春から初夏にかけて咲かせます。花の色は実に多様で、萼は暗褐色や淡緑色に染まり、下向きの3つに分かれた花卉は白色から淡紅白色のものまで特徴的です。只見町では山地一帯が新緑に包まれる5月中旬から開花し、林内を鮮やかに彩ります。

エビネの仲間は、分布域や開花時期が重なる近縁種の間で自然交雑を生じることがあります。また、同一種内における花色や形の変異も大きく、これらをかけ合わせた園芸品種が数多く生み出されています。こうしたエビネ類などラン科植物の栽培は1970年代から全国的なブームとなり、只見町においても自生地での盗掘・乱獲が相次ぎました。その結果、ランの仲間の中では比較的普通に見られたエビネは各地で激減し、加えて生育地での開発による環境変化も大きな脅威となり絶滅の危機に追いやられました。

エビネを含むラン科植物の根は「ラン菌」と呼ばれる菌と共生しており、種子もこの菌がなければ発芽しないとされます。しかし、ラン菌が森の中で一様に繁殖しているとは限りません。そのため、野外のエビネを保全するには、植物自身を乱獲から守るほか、自生地の生育環境もあわせて残していくことが重要なのです。

### 只見町ブナセンターからのお知らせ

只見町ブナセンター附属施設「ただみ・ブナと川のミュージアム」では下記企画展を開催中です。皆様のお越しをお待ちしております。

#### 企画展アーカイブ「只見の春植物とその生活史」

会 期：2021年4月3日(土)~2021年5月31日(月)

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー